

英知通信



昭和47年5月10日

英知大学

No.6

入学おめでとう

ただいまここに昭和四十七年度、英知大学、英知短期大学の入学式を挙行いたしますことは本大学の教職員、在学生すべての者にとって大きな喜びであります。私は学長として本大学を代表し、新入生の皆さんと皆さんのご父兄の方々に對しまして心よりお祝ひ申し上げます。

新入生の皆さんはいま未来への大きな希望をもって入学されたに違いないと存じます。

私は皆さんの人生における大学生活を祝って、大学生活の意味について

大学生活の意味

—入学式式辞—

学長 岸 英司

て少しお話ししたいと思いま

大学とは何か

大学はご承知のように、私たちの人生における学校教育の最後の場です。大学のはじまりは遠く中世ヨーロッパですが、こんにち文明国で大学の存在しない国はなく、またこんにちでは少数の人ではなく多くの人が大学教育を受けるようになってまいりました。これは人類の進歩をあらわしております。大学はそれぞれの学を専門的に研究す

る場であるとともに人間形成という教育の場でもあります。大学のなっているこの二つのもの、すなわち研究と教育はややもすると別のことであるように考えられ、また何れに重点をおくべきか、あるいはこの二つを両立させることは困難であるとかいったいろいろな事が考えられるわけですが、しかしこの事を深く考察いたしますとき、私たちはこの二つのものが二つではなく、実は一つのものであるという認識に導かれるのであります。

まず学—サイエンスとは何であるのか、それはいろいろな原理に基づく秩序だった真理の探求に外なりま

せん。そこには論理があり、理性の支配があるのであります。真理とは例えは一たす一は二であるといった、自然科学的真理のみならず、人間は悪を避け、善をなすべきであるという人間に関する真理もものであるとい

ます。学の対象は真理であり、その真理を客観的なものとして受け入れ、これに従うことが学の道に志す者に常に要請されるのであります。真理を発見し、真理に従うことは人間に喜びを与えるものであります。ここに学問を志す者の幸福があります。大学はこのような学問における真理の研究の場なのであります。

本大学では神学の研究と文学の研究であります。これらの分野における皆さんのこれからの研究が実は皆さんの人間形成に深くかかわっております。

人間形成とは一体何を言うのでありましょうか。人間は他の動物と異なり、生まれながらでは人間とはならないのです。人間が真に人間となるのは、学ぶことによって、教育によってであります。このことは大変不便なことのようにも考えられますが、実はこれこそ、人間が動物に優る所以であり、人間が偉大なる進化の中にあることの何よりのしるしであります。人間には知性がありま



す。人間のもつ知性の力は、人間の過去と未来とを現在に結びつけ、人間の生存を可能ならしめるものであります。私たちが生きていくということは、私たちが過去と未来とを現在で結びつけているということに外なりません。このような私たちの生き方は、常に可能性の実現をめざしたものであり、これが私たちの人間形成ということでもあります。皆さんはこの大学で皆さんの人生における人間形成の一番大切な時期を過ごされるのです。大学生活における人間形成、これは学問における真理の研究によってもたらされるものであり

ます。真理は力あるものであり、皆さんは学問における真理の獲得によって、人生をより豊かなものとし、自己の人間形成の可能性を追求するのです。皆さんがこれからこの大学でそれぞれの分野における研究に努力されることは、取りもなおさず皆さんの人間形成への努力なのであります。

カトリック大学

とは何か

本大学は皆さんご承知のようにカトリック大学であります。カトリックとは何を意味するのか、それは人類普遍の原理を意味しております。すなわち、すべての人がそのために生き、またそれによって生きるところの永遠の原理を意味するのです。これが宗教であります。それはあらゆる人にとって真理なるものでありそれゆえにこそ、あらゆる時代、あらゆる場所であらゆるものととも、それゆえにこそ、あらゆる時代、あらゆる場所であらゆるものとを意味しております。

こんにちには多元的社会であり、いろいろな思想と実践がうずまいていく世界であります。これらのすべての対立せるものより高き総合こそカトリックという言葉の意味するものであります。このことによってカトリックは小さな社会、国家をこえて世界的、宇宙的なものとなりま

す。
英知大学はカトリック大学であり、この大学の追求する真理は普遍的真理であり、ここで追求する人間形成は普遍的人間であります。言葉をかえて言えば、真実の学問と真実の人間の追求であります。このような理想を私たちは英知、サピエンチアという言葉によってあらわすのであり

体育館兼講堂の落成式荘厳裡に挙行

— 創立者田口前学長の司式により

で祝賀パーティが催された。また来賓はもちろんのこと、本学教授、学生全員に記念バッジが手渡された。明けて翌十四日は、新入生歓迎を

未来へ向って

人間の可能性は殆んど無限であるということが出来ます。人間の頭脳の細胞はいかに精巧なる電子計算器も及ばない集中力を備えたものであ

ります。私たちは自己の意識のめざめによって、この私たちのもつ力の可能性を進展させることができるのです。皆さんの未来は輝かしいものであります。もしも皆さんが、未来への信仰をもち、それに努力される限りにおいて、皆さんの本大学におけるこれから皆さんの人生における

の大学生活は皆さんの人生における

最も意味深い、可能性の追求と発展であり、そのことによって社会と世界と宇宙が更に発展することを私は確信しております。

最後に皆さんのこれからの大学生活が実り豊かなものであることを念願しながら、これをもって、私の式辞といたします。
(昭和四十七年四月十日)

も含めて、落成記念行事がコーラス、E・S・Sなどの各文化クラブの学生によって催された。
(写真説明 体育館兼講堂を祝別する田口芳五郎前学長と落成式に参列した学生)

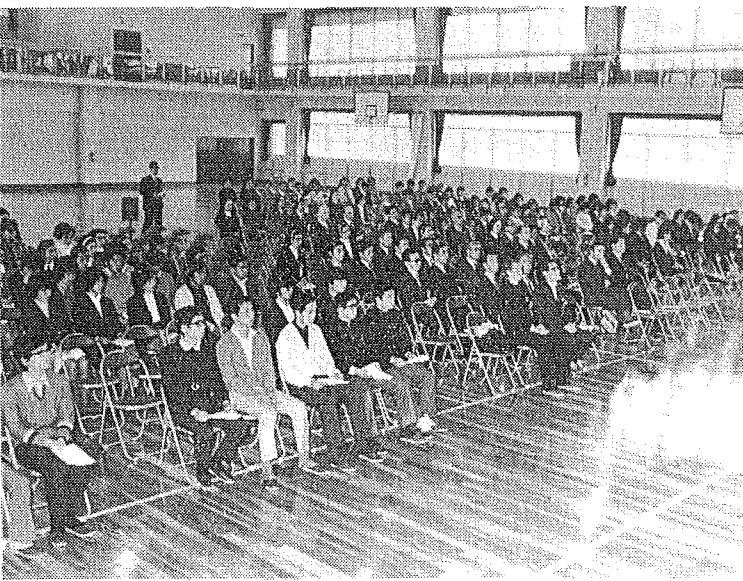
新築の講堂で晴れの入学式

完成されたばかりの真新しい講堂で、四月十日(月)午前十時より、昭和四十七年度英知大学ならびに英知短期大学の入学式が挙行された。式は松本信愛講師の司会によって始められ、関知子講師によるパイプオルガン前奏につづいて聖歌が歌われ、壺内弘吉学生部長によって聖書が朗読され、祈祷が捧げられた。本年度入学者は、神学科七名、英文学科九名、イスパニヤ文学科三十八名、フランス文学科四十九名、短大宗教科七名、合計二〇〇名であった。
式後、各学科別に記念撮影が行われ、午後からは学科長の挨拶と学科紹介が行われた。

創造のよろこび

— 現場監督 磯崎芳宏氏に聞く —

体育館兼講堂の建築工事を請負った藤木工務店の現場監督磯崎芳宏氏は、工事終了後、落成式を前にしてつぎのように感想を語っていた。
「何もなかったところから形のあるものを創造してゆくよるこび、これが現場で作業する者が体験する共通のよるこびである。思えば去年八月十八日の起工式以来、延べぎと六千人のひとびとを動かしてきた。もっとも苦しかったことは、工事も機械の操作でもなく、いろいろな職人たちのつながり、すなわち人間関係であった。毎日およそ十時間以上働いた。しかし多くのことがらは技術によるというよりは、人間の感情によって動かされてゆくのではな



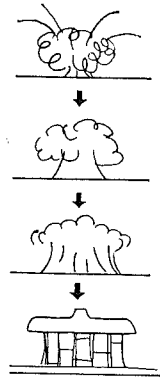
かるるか」と。

体育館兼講堂の落成式は、四月十三日(木)、午前十時より、創立者、前学長、田口芳五郎大司教の司式、井上博嗣助教授の司会により荘厳裡に挙行された。まずはじめに関知子講師による前奏につづいて聖歌が歌われ、田口大司教みづからの手によって祝別がなされた。つづいて林篤理事長より感謝状が関学谷建築設計事務所長、関学谷眞吾氏をはじめ、株式会社藤木工務店社長(工事請負主)、それに財政的な援助を賜った京阪神急行電鉄株式会社社長と株式会社タスキン社長にそれぞれ贈呈された。岸英司学長が式辞を述べたあと田口大司教と評議員の野本富一氏より祝辞が与えられた。ノートルダム女子大学学長シスター・ユウジニアをはじめとする近隣諸大学の学長および高等学校校長よりの祝電がひとつひとつ披露され、式典は聖歌合唱をもってその幕をとした。式後岸学長の案内によって各階の各部屋が列席の来賓に披露され、一階の音楽室



建築の発想

間 苧 谷 真 吾



この度の講堂体育館の竣工お目出度うございます。学長広報室より何を考へて、この建物を創ったか一文を書けとのことで、機能的な説明とか、講堂の大きさは何米掛ける何米で、又どうしてこの場所に、放送室を、喫茶コーナーを配置したかという様な事よりも、なぜこの様な形を造ったか、又何が特徴かを書いて見ようと思ひます。建築は音楽や絵画の様な表現力には乏しいですが、無意識のうちに人間の生活、動線、環境を固定させ、包括する大きな力があります。人間の生活空間の諸々の機能と要求を整理し、秩序づけるのが建築家の仕事です。所で大学へ来て何時も学生さんを見たり、話をしてしていると、第一にその素直な若々しさを強く印象づけられます。それが何とか形の発想にならぬかと考へ、色々の可能性を含んだ火山の爆発する様子、若さの力強く、大きな爆発と発展をデザインしました。

又、大学教育は一人一人の個性の発展と尊重だと思ひます。建物にも多くの部屋がありそれぞれ個性と機能があるわけですから、それらを考へて、一室毎に色調を変えて、しかも全体として調和する様に留意し特徴づけました。

五十年先、百年後の立派な伝統ある英知大学を想像しますと、大学の発展の一步一步を建築の分野で、担当させて戴けた事を大変に光榮に思ひますとともに、その頃の学生さんが、この建物を見て何と判断されるか大変興味があり、又何とかこの建物に、建築的生命が残っている様、希望しております。

(筆者はまおたに建築設計事務所長)

学生部長に壺内弘吉教授任命

事務組織拡張・学長広報室誕生

本学の発展にともない、事務組織もまた拡張されて、四月一日付で各部署にあらたに人事移動が見られた。これまで共通の事務組織の中にあつた学生部と教務部がおのの独立、学生部長に壺内弘吉教授が任命された。また教務部長には、これまで学生部長兼教務部長であつた傘木

澄男教授が任命された。さらにまた学長のもとに学長広報室があつた。誕生し、過去四ヶ年間就職課の指導にあつた井上博助助教授が職業指導課を辞任して、学長広報室長に任命され、英知通信や大学案内の編集、発行とともに、学長の秘書業務の責任をとることとなった。

ダスキン鈴木清市

社長に感謝

株式会社ダスキンの鈴木清市社長は、社長室長の小島三郎氏を通じて、体育館兼講堂の落成式に際して一階応接室に長椅子、安楽椅子、テーブル、洋服掛をはじめ、ティールームの椅子、テーブル、二階ホールの椅子など多くの物品を寄贈された。またこれまでに多くの成績優秀な学生たちに対して育英資金を与えられたこともあり、本学の恩人である。

学生部長 壺内弘吉談



大学では、こゝろ新しく教務部と分かれた学生部をつくり、

両面から学生諸君の大学生活を指導することにいたしました。私は学生部長に選ばれました。自分では果たして諸君のため十分なお世話ができませんか、まだまだ不安であります。どうか皆さんの方からも、「こうすれば良いのではないか」などとお教え願ひたいのです。「これは学生部長に相談すべきだ」、ということがあるれば、どうか心配せずに私の研究室へ来ていただきたいのです。良く話し合うのは大切なことです。授業とかその他のことで研究室に居ないこともあるかも知れません。できるだけ時間を作って皆さんにお会いしたいと思います。私としましては、皆さんが今年も力いっぱい勉強されることを心から願っております。

英知大学第一回

ヨーロッパ英語研修旅行を企画

欧米諸国への短期留学が盛んになつてゐる今日のごころ、本学では創立以来はじめての試みとして、ヨーロッパへの英語研修旅行を企画中である。八月三日(木)、本土をたつて、四日ローマに着き、カトリックの大本山ヴァチカンを見学した後、六日、ロンドンに向う。郊外の町タートンにて一行はおのり別れて、イギリス人の家庭に二週間泊めていただく、そこからインスターナショナル・ランゲージ・センターのセミナーに通つて英会話をマスターする。八月二十日、ロンドンを出発して、アムステルダムへ着き、市内を観光。翌二十一日ジュネーブへ着いて、レマン湖やロシア教会を見学。二十二日にはパリへ飛び、ルーヴル博物館、ノートルダム大聖堂を見学。八月二十五日、東京着、となつており、日程は全部合わせて三週間。費用は、一人あたり三五万八千円で、これには航空運賃、ホテル料金、食事料金、英語セミナーの費用および英国家庭に於ける滞在費が含まれている。なお、支払いにあつては頭金五万円、二十五回分割払いのローンも可能である。申込みの最終締切日は六月二十日となっているが、三五名定員となつてゐるので、申込順、定員になり次第締切の予定である。このセミナー・フライトには、英知大学学生はもちろんのこと卒業生、および他大学の学生、一般の方々だれでも自由に参加できるので、振つて申込みたい。申込み先

人事発令

英知大学は四月一日付で、つぎのように教員人事および事務局人事を発令した。

教員人事

- 新任
 - 一般教育科目(体育) 助手 浦田裕貴
 - 同 (経済学) 講師 村田稔
 - 同 (神学) 講師 和田幹男
 - 同 (神学) 講師 和野俊明
 - 同 (英語) 講師 フランシス・ハクレンヤ
 - 同 (フランス文学) 講師 多湖正紀
 - 同 (仏文学) 講師 前田総助
- 昇格
 - 一般教育科目(法学) 教授 傘木澄男
 - 同 (体育) 講師 花野俊明
 - 同 (神学) 教授 ケレル・バート
 - 同 (神学) 教授 瀬尾修
 - 同 (神学) 助教授 土田裕造
 - 同 (英文学) 助教授 小林裕
 - 同 (英文学) 講師 小田裕
 - 同 (西文学) 講師 鮑宗賢
 - 同 (フランス文学) 教授 大園義興
 - 同 (仏文学) 助教授 ジョセフ・エリール
 - 同 (仏文学) 助教授 ポール・スクリス
 - 同 (仏文学) 講師 木村忠司
- 退職(三月三十一日付)
 - 教授(数学) 平尾廉造
 - 教授(フランス文学) 目黒摩天雄
 - 講師(体育) 石田知一

事務局人事

- 総務部長 小野龍之助
- 教務部長 傘木澄男
- 学生部長 壺内弘吉
- 庶務課長 山川孝実
- 学長広報室長 井上博嗣

大学における保健体育の意義

—— 体育館落成によせて ——



人間教育として大学教育に導入された保健体育は、

花野俊昭

今日においてもまだ大学の教育研究体制の中に確立されているとは言いがたい。それは体育に対する認識の浅さや知的文化偏重からくる体育研究の評価の低さから由来するものであった。しかし大学が人間についてあらゆる可能な側面からアプローチし、その深い認識の上にもとづいて人間として望ましい方向に生きる為の諸条件の育成に科学的合理的に寄与するものであるとすると、人間に対する基礎的な研究領域と教育領域は当然大学教育の中に確立されるべきものであった。そしてこのよう

な中で本学の保健体育も今後の体育の領域と役割を認識し、その総合的把握の上になつて新しい人間教育としての体育を展開させようとしている。さいわい当大学において体育に対する深いご理解とご骨折りでここに体育館並びにトレーニングセンターが完成したことは我体育担当者にとってこの上もない喜びである。そして私の頭の中に今後の大学教育の中で新しい保健体育の構想が浮かんでくる。それはたんに時代に逆行した中教審の改革案に準ずることなく体育を歴史的にあるいは体力的観点にたつて認識する時、その現代的意義は保健体育を位置づける重要な柱

となるものである。例えば高度に工業化都市化された現代社会は多くの公害や幾多の人間性の歪みといった諸現象を生み出しており、現代はこの人間無視を否定して人間生活の幸福を守り豊かな人間性を回復することが急務であると言われている。そしてこのような時保健体育はそれに寄与すべき重要な役割を果たさなければならぬと思う。そして今後の保健体育が正課体育、課外体育、保健管理の三つの柱を基礎としてすべての学生諸君が社会の各方面に人間の幸福に寄与するような個性的創造的な人間の育成を企図するために我々担当教員は日夜より一層の研究と努力をしなければならぬと信じている。

(筆者は本学講師、保健体育担当)

研究室便り

○岸英司学長が昭和三十八年、モントリオール大学大学院神学研究所に英文の博士論文として提出された「トマス神学の観点より見たる神における霊性の自覚について」の書評がこのごろオランダのフリー・ユニヴァシティのH・V・ラバード教授によって書かれ、ハワイ大学刊行の学術誌 Philosophy East and Westの本年度一月号にのせられた。

「禪の体験の中に存在する神秘性が聖トマスに見られる照明的観想とき

わめて相似するものである」ことを文献学的根拠をあげて論考したものと、今日においてさえまれに見る、きわめて貴重な論文であると、ラバード教授はその学問的価値を高く評価している。

○西山俊彦助教授(社会学担当)は、京都大学梅本堯天教授の協力のもとに、文部省科学研究助成金を得て過去三ヶ年あまり「パースナリティの比較宗教学的考察」と題する社会心理学的研究を行っている。すでに研究も相当の進歩を見せている模様で日本社会学会においてその成果の発表に多大の期待がよせられている。

就職率高調

—— 職業指導課 ——

ドル・ショックによる不況にもかかわらず、昭和四十六年度卒業生の就職率は全科平均して男子九一%、女子九三・九%という好成績をおさめた。それを各学科別にみると、神学科一〇〇%、英文学科、男子八五・七%、女子九四・七%、西文学科男子一〇〇%、女子一〇〇%、仏文学科、男子一〇〇%、女子八五・七%となっている。また本年四月より浦田裕貴助手が就職指導課に勤務することとなった。

卒業記念に母校に寄贈

—— 四六年度卒業生一同より ——

- 一時計 一個
一鏡 一面
一圖書券 一通
一花瓶 二個
卒業生一同の厚意にたいして心より感謝の意を表明したい。

図書館報告

昭和46年4月1日～昭和47年3月31日増加冊数および所蔵冊数

Table with columns for 'Increase' (増) and 'Total' (計) for various categories like 'Humanities' (人文学), 'Social Sciences' (社会科学), 'Natural Sciences' (自然科学), 'Languages' (言語), 'Library' (図書), 'Physical Education' (体育), 'Small' (小計), 'Total' (総計).

主よ、永遠の安息を

—— 卒業の喜びもむなしく ——

尾崎博明君、三月十七日、深夜、尾崎君は、入社したばかりの山口化成(株)の社員寮にてガス中毒による事故死を遂げた。同君の突然の死をい

たんで、三月二十六日、午後二時より園田カトリック教会において、岸英司学長以下、松本信愛、土田裕造、村田稔神父たちによる共同ミサが捧げられ、多数の学生がこれにあ

英知通信

昭和四十七年五月十日発行
編集 英知大学学長
発行 廣報室

兵庫県尼崎市若王寺苗田
(06)四九一-一五〇〇の三
六六一

なお、入館者数は一五、二三三人(一日平均五六・六人)であった。